



厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center (JSCP)

学校における児童生徒の自殺関連行動 発見時のチームとしての対応

こどもたちの危機を発見し、
連携可能な関係機関（保護者含め）を招聘し、
支援の方針・役割分担を行う。

支援の経過を共有し、
状況に応じて方針・役割分担を修正・変更し、
新たな課題に応じて支援チームを拡充する。

児童生徒の自殺関連行動を発見した際の初動対応

情報の把握（誰かが自殺の危機に気付く）

- ・自殺をほのめかす会話や発言、メモや絵、SNS等ネットへの書き込み
- ・保護者や友人等からの自殺の危機や、心配についての連絡
- ・自傷行為
- ・過量服薬 など

他機関からの情報収集・連携

【要保護児童対策地域協議会として】

- ・要保護児童対策地域協議会から虐待歴等（家庭の状況）を収集
- ・教育相談室等から相談履歴の確認

生命の危険あり

警察・救急へ

校長へ迅速に報告

校長による報告（第一報）

教育委員会事務局
（指導主事へ）

校内の危機対応組織の招集

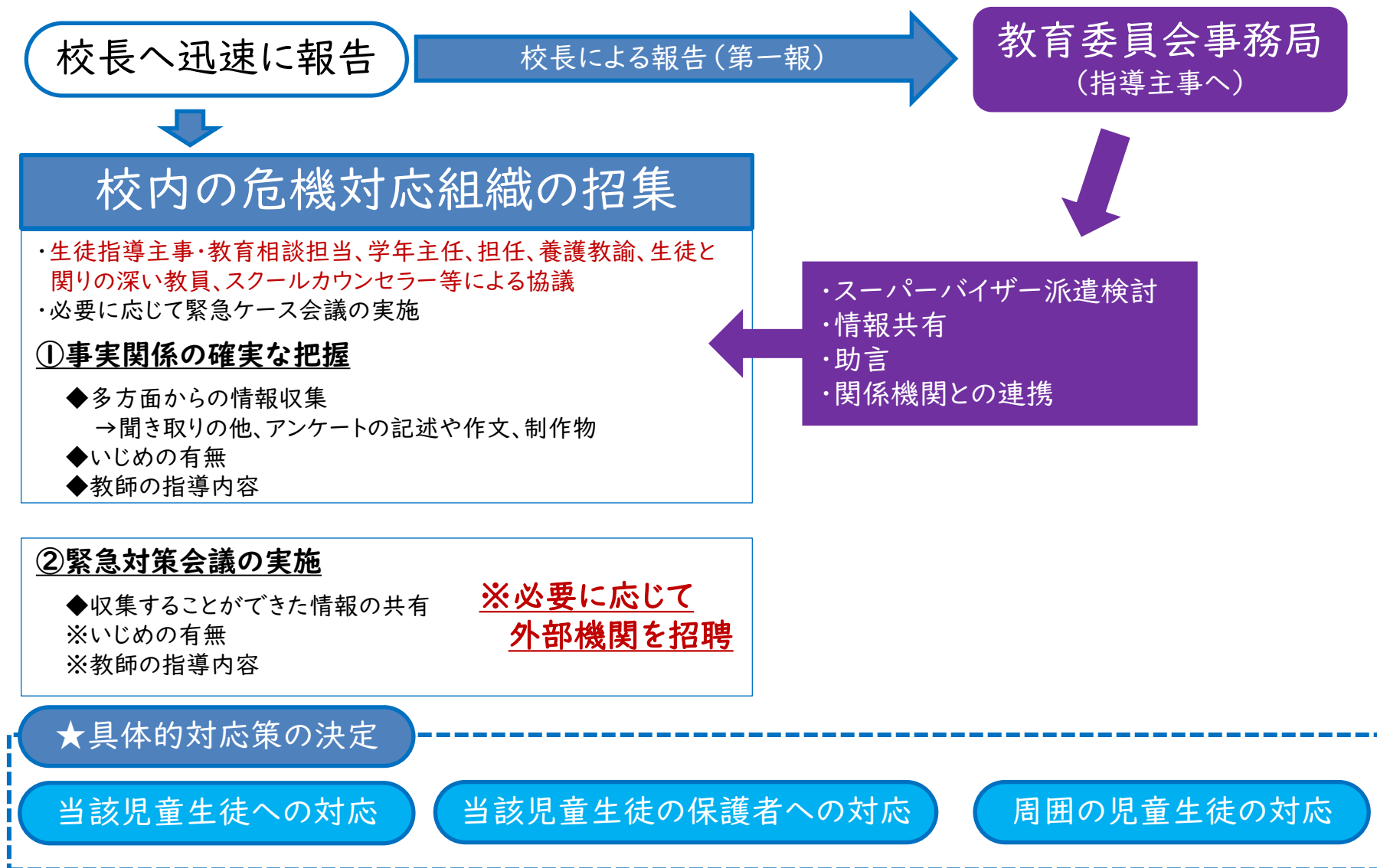
- ・生徒指導主事・教育相談担当、学年主任、担任、養護教諭、生徒と関りの深い教員、スクールカウンセラー等による協議
- ・必要に応じて緊急ケース会議の実施

①事実関係の確実な把握

- ◆多方面からの情報収集
→聞き取りの他、アンケートの記述や作文、制作物
- ◆いじめの有無
- ◆教師の指導内容

- ・スーパーバイザー派遣検討
- ・情報共有
- ・助言
- ・関係機関との連携

児童生徒の自殺関連行動を発見した際の初動対応 つづき①



児童生徒の自殺関連行動を発見した際の初動対応 つづき②

当該児童生徒への対応

- 一人にしない、安心させる、傾聴する
- ◆児童生徒のペースに合わせて話を聞く、安心させること
- ◆「秘密にしてほしい」訴えにも『安全』を優先し必ず組織で対応する心構えを（教員一人での対応は不可能）

TALKの原則

Tell:言葉にして心配していることを伝える
Ask:「死にたい」気持ちについて、素直に尋ねる
Listen:絶望的な気持ちを傾聴する
KeepSafe:安全を確保する

- ◆安全確保
- ◆再発防止に向けた心理教育の実施
- ◆確実な見守り
 - ・見守り体制の確立
 - ・一人で下校させない
 - ・状況に応じ学級担任、養護教諭、SCとの面談

◆当該児童生徒の支援

- ・学校
- ・教育相談室
- ・医療機関

当該児童生徒の保護者への対応

- ◆情報共有と相談
- ◆背景事情の把握
- ◆自宅における見守り体制の確認
 - ・家庭内危険物の除去
- ◆翌日以降の登下校の方法を確認
- ◆自殺対策部署についての情報提供（状況悪化への備え）

希死念慮の原因が
保護者である場合に
についても想定しておく
(こども家庭支援センター等
の情報が重要)

◆家庭への支援

- ・学校
- ・教育相談室
- ・自殺対策部署
- ・保健所
- ・要保護児童対策地域協議会
- ・民生・児童委員
- ・医療機関

周囲の児童生徒への対応

- ◆影響を受けそうな児童生徒への配慮と心理教育（SCとの密接な連携）
- ◆高学年では友達から「死にたい」相談を受けた場合に、周囲の大人につながることが重要

きょうしつの原則

き：気付いて
よ：よく聴き
う：受けとめて
し：信頼できる大人に
つ：つなげよう

<個別対応>

- ◆個別支援計画の作成
- ◆必要であれば合理的支援の実施
- ◆家族との連携
- ◆友人間の調整
- ◆他機関との連携

◆周囲の児童生徒支援

- ・学校
- ・教育相談室